

大手前学園
海外危機対応マニュアル
(学生用)

第一版

<目次>

第1章	はじめに	3
第2章	海外生活の心得	4
第3章	渡航前の実施事項	6
第4章	渡航直後の実施事項	11
第5章	滞在中の留意事項	12
第6章	緊急時の通報・連絡体制	14
第7章	海外で想定される危機とその対策	18
第8章	家族の心構え	24
第9章	帰国時の対応	25
第10章	付録	27

【海外危機対応に関する実施事項】

海外危機対応に関する実施項目は下表のとおりです。また、各事項の詳細は本マニュアルの該当頁を確認して下さい。

実施タイミング	実施事項	該当頁
渡航前	オリエンテーションへの参加	P. 6
	渡航前の安全対策	P. 6
	海外旅行保険の手配	P. 7
	渡航前の各種準備	P. 8
	出発当日の注意事項	P. 9
	その他注意事項	P. 10
渡航直後	大学への到着連絡	P. 11
	渡航先大学の危機管理体制の把握	P. 11
	在外公館での手続き	P. 11
滞在中	滞在中の留意事項	P. 12-13
緊急時	危機の報告	P. 14-16
	交通事故が発生した場合の対応	P. 18
	疾病・感染症が発生した場合の対応	P. 19
	盗難・強盗が発生した場合の対応	P. 20
	誘拐が発生した場合の対応	P. 21
	暴動・デモ、テロが発生した場合の対応	P. 22
	自然災害が発生した場合の対応	P. 23
帰国時	大学での事務手続き	P. 26

第1章 はじめに

1. 本マニュアルの目的

昨今、語学留学やインターンシップ等で海外へ渡航する学生の増加に伴い、事件・事故や自然災害等により自身が被害に遭うケースが増加しています。このような現状を鑑み、この度、海外に渡航する学生の安全確保を目的として本マニュアルを作成しました。

本マニュアルでは、海外で大手前学園の学生に関する危機が発生した場合の対応方針や体制に加えて、学生自身が理解しておくべき基本事項を掲載しています。海外に渡航する学生は、本マニュアルを熟読し、内容を遵守した行動をして下さい。

2. 本マニュアルの位置付け

大手前学園の危機管理については、「危機管理規程」に体制や基本的な対応ルールが定められています。本マニュアルは、その下位に位置づけられ、海外に渡航する学生に関する危機に特化したものです。本マニュアルに記載のない事項については、前記の規程を参照して下さい。

3. 基本方針

- ・海外へ渡航中の学生は、自身の生命の安全を最優先に行動する。
- ・海外へ渡航中の学生は、大手前学園が定める諸規程および本マニュアルの内容を遵守し、必要な安全対策に努める。
- ・大手前学園は、学生および教職員が海外において安全な生活を確保するため最大限サポートする。

4. 適用範囲

本マニュアルは、留学・研修等学業を目的として、大学の許可の下に海外に渡航するすべての学生に適用します。

本マニュアルにおける危機管理の対象は、原則として、本学が許可または承認する派遣留学、海外研修、海外出張等に係る渡航及び留学受入に参加する学生、教職員とし、対象の生命、精神、財産の安全確保を最優先して下さい。

個人渡航や本学が許可あるいは承認しないものについては、本マニュアルにおける危機管理の対象外とします。

第2章 海外生活の心得

渡航先での危険を回避するための心得として、すべての局面で必ず遵守して下さい。

1. 危険に関する情報を収集する

同じ危機に関する情報でも、渡航前に国内で入手できる情報と、現地で入手できる情報には、質・量の両面で差があります。不確かな情報に惑わされることなく、最新の正しい情報に基づいて、冷静に行動することが大切です。そのためにも信頼できる情報を収集し、適切な判断の材料とすることが大切です。

2. 現地の法律を守り、歴史や宗教、文化、風習を理解し尊重する

日本では当たり前な行動が、現地では不適切であったり、違法となるケースがあります。また、現地の歴史や宗教、文化、風習をよく理解し尊重することも、危険回避のために重要です。事前によく調べて理解を深めておきましょう。

【気をつけるべきポイント】

項目	留意すべき点
薬物使用・所持	理由の如何に関わらず、死刑や無期懲役などの厳罰が科せられる国・地域がある。
飲酒	公共の場での飲酒が禁じられていたり、飲酒年齢制限も日本と異なることがある。
写真・ビデオ撮影	スパイ行為とされたり、許可のない撮影が違法行為となる場合がある。
禁制品	国により規制が異なるため、アルコールや植物などの持込は注意を要する。
歴史	その国独自の歴史観や日本との歴史的問題が存在することがある。
宗教	多くの宗教には、忌避事項がある。
在留資格	留学ビザではアルバイトはできません。
政治	政治的に不安定な地域では、不用意な言動や服装等に留意する。公の場で特定の政党などについてコメントすることや政党カラーの色の服を着て外出することは控える。

3. 自分の健康上の特徴を認識しながら、新しい環境に対応する

現地の気候や食生活は、日本と異なることが多く、現地生活に合わせた体調管理を行う必要があります。自分に出やすい症状を把握し、発症した場合にはどのように対処すべきかを把握しておきましょう。常備薬はもちろんですが、現地で信頼のおける医療機関の所在地・連絡先は事前に調べておきましょう。

また、地域によっては大気汚染が深刻です。マスクを用意する、常備薬を持参する、予め医師にアドバイスを求めるなどの対策を講じておきましょう。

4. 現地で有効な危機回避行動を習得する

現地の危険ポイントについて、現地の人々がどのように認識し、行動しているのかを把握し、危険を回避するよう努めましょう。渡航先のオリエンテーションなどで現地の危険情報が提供される場合もありますが、できる限り早いうちに、関係者に聞くなどして危険情報を得てください。

また、必要以上に現地の人と比べて派手な服装・装飾品を身につけることは慎んで下さい。露出度の高い服装や、シャツのプリント文字が、現地の人々の反感を買うようなメッセージを発していないかを客観的に見て下さい。また、日本人同士で集まって騒ぐなどの行為は厳に慎んで下さい。「ロー・プロファイル（目立たない）」に徹することが、危険回避の大原則です。

5. 常に自分の所在を明らかにし、連絡がとれるようにする

渡航先では、有事に備えて常に家族や大手前学園、渡航先の関係者、現地の在外公館と連絡がつく状態を作っておいて下さい。

渡航先で大規模災害やテロなどが発生したときに、大手前学園は、電話連絡等の手段ですぐに皆さんの安否確認を行います。

滞在が1ヶ月以上になる場合は、渡航後すぐにその地域管轄の日本大使館・領事館へ「在留届」を必ず提出して下さい。「在留届」を在外公館に届けることにより、万が一、事件、事故、災害などに巻き込まれた際、日本大使館・領事館の援護（安否確認や緊急国外退避など）の対象として認識されます。

「在留届」に関する詳細は、「第4章 渡航直後の実施事項 3. 在外公館での手続き」を確認して下さい。

6. 見知らぬ人を安易に信用しない

渡航直後など、現地に慣れず不安のあるうちは、親切そうに笑顔で近づいてくる人に対して警戒心が緩む傾向があります。しかし、そうした学生は犯罪の絶好のターゲットになってしまいます。世界中には日本ではあまり考えられない様々な被害例（偽ガイド、偽装警官、ぼったくりバー、いかさま賭博、カード詐欺、睡眠薬強盗など）があります。見知らぬ相手の安易な誘いの言葉に乗らないように注意して下さい。

また安易に自分の個人情報了他者に与えないように注意して下さい。仮に留学先のキャンパス内で出会った相手であっても、大学関係者や学生とは限りません。

7. 家族には定期的に連絡をする

学生のみなさんが海外へ渡航している間、本人以上に日本で待つ家族が不安を感じたり、身の安全を心配しているケースが少なくありません。

海外の生活では、たとえ学生本人が特に身の危険や不安を感じたりしなくとも、現地到着時や帰国時以外にも定期的に日本で待つ家族へ連絡を行うよう心がけて下さい。

第3章 渡航前の実施事項

海外への渡航が決まったら、次の手順で渡航までに必要な事項の準備を行って下さい。

1. オリエンテーションへの参加

大学主催の海外研修・留学等では、事前にオリエンテーションを行います。海外研修・留学に渡航予定の学生は、各プログラムごとに案内されたオリエンテーションに必ず参加して下さい（オリエンテーションに参加しなかった場合には、研修・留学への参加を認めないことがあります）。

2. 渡航前の安全対策

説明会やオリエンテーションの内容を踏まえ、渡航先での安全を確保するために、次の準備を行うようにして下さい。

【健康管理】

持病やアレルギー等がある方は、渡航期間中に必要な分量の薬を処方してもらい、渡航先に持参して下さい。

健康状態のチェック（大学内の保健室への相談）や必要な人は健康診断を受けて下さい。

渡航先に応じて、感染症予防のための予防接種を行って下さい（渡航先によっては、入国時にワクチン予防接種済み証明書の提出が求められることがあります。厚生労働省のホームページを確認して下さい）。

渡航前の体調の維持・管理には十分留意して下さい（発熱などの症状により、飛行機に乗れない場合があります）。

【防犯対策】

防犯ブザーなどの防犯用品を購入しておいて下さい。

【情報収集】

危険予防の基本は、リスク情報の収集とそれに基づいた適切な準備です。「第10章 付録 2. 情報収集先一覧」から渡航前に必要な情報を収集しておいて下さい（渡航先でも、常に情報収集を心がける）。

【緊急連絡先の確認】

大手前学園や引率教職員、その他渡航先施設等の緊急連絡先を確認の上、「第10章 付録 1. 緊急時通報先一覧手持ちメモ」に記入し、本マニュアルとあわせて渡航先に持参してください。

大手前学園の緊急連絡窓口は、「第6章 緊急時の通報・連絡体制 2. 危機の報告窓口および報告ルート」に記載しています。

3. 海外旅行保険の手配

本学主催の海外研修に参加する学生は、本学が指定する補償内容の海外旅行傷害保険に加入することを義務付けています。短期研修参加者は、大学が旅行代理店を通じて保険の加入手続きを行います。長期研修と交換留学に参加する学生は、各自で加入手続きを行ってください。

出発前までに、大阪大手前キャンパスの学生は教務学生課に、それ以外の学生は国際交流センターに加入した証券写しを提出すること。

【(参考) 虫垂炎手術入院の都市別総費用】 (損害保険協会作成資料より抜粋)

都市	総費用 (円)	平均入院日数
パリ	860,500	3
パース	408,400～1,002,100	3～4
シンガポール	154,800～773,800	1～2
バンコク	511,000～	2～3
マニラ	393,400	7

4. 渡航前の各種準備

【家族や関係者への連絡】

家族(緊急連絡先)や下宿の大家さんなどに、旅程表、緊急時の現地連絡先、国内連絡先、大手前学園の連絡窓口などを知らせて下さい。

【留守中の住居】

一人暮らしの場合は、住宅関連の手続き・安全(電気・ガス・水道の元栓の確認、家賃の支払い、窓・ドアの施錠など)をしっかりと確認して下さい。

渡航が長期に及ぶ場合は、役所での海外移転に関する手続き、公共サービス(電気・ガス・水道・電話)や新聞、インターネットプロバイダ契約などを一時停止するといった対応を忘れないようにして下さい。また郵便物の転送届も郵便局に出しておく必要があります。

これらの手続きには期間に余裕をもって行って下さい。

【荷造り】

主な持ち物を「機内持込」と「預け荷物」に分けると便利です。また、快適で円滑な渡航とするため、不要なものや代替可能なものは持たずに、軽量化を図って下さい。

【(参考) 機内持込荷物、預け荷物】

荷物種別	具体例		備考
機内持込荷物	貴重品などは手荷物として機内に持ち込む	貴重品	パスポート、航空券、現金(日本円、現地通貨など)、クレジットカード、海外旅行保険証券、旅程表、研修資料、顔写真、パソコン、常備薬など
		その他	本マニュアル、緊急連絡カード、筆記用具、手帳など (手帳には、パスポート番号・発行年月日・期限、日本の住所、宿の名前と住所などを記しておくとう便利。)
預け荷物	手荷物以外は預け荷物に入れる	貴重品(パスポート、航空券、現金など)、火気のおそれがあるもの(リチウムイオン電池など)を預け荷物に入れないこと。	紛失時に備え、「機内持込」と「預け荷物」には、名前と連絡先を明記する(タグを付けるなど)※

※紛失時に備えた対策ですが、荷物などにタグなど自分の名前が分かるものを付けたままでいると、名前を読み取られて、思わぬ被害に遭いかねません。荷物受取後は速やかに外して下さい。

被害例：空港出口でタグに記載された名前を読み取られ、あたかも旅行代理店から派遣されたように装う等して、旅行者を仲間の違法タクシー(いわゆる「白タク」)運転手のところに案内して乗車させ、降車時に法外な金額を請求する。

【「たびレジ」への登録】

外務省の海外安全情報配信サービス「たびレジ」に自身のメールアドレスを必ず登録し、海外現地の危険情報をタイムリーに収集できるようにして下さい。

■たびレジ HP <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

5. 出発当日の注意事項

【集合について】

集合時間は前もって確認しておき、当日は、空港までの道路混雑や公共交通機関の遅延を見越して、時間にゆとりを持って指定された時間までに到着するよう行動して下さい。

【空港において】

■チェックイン手続き

- ・団体の場合は、集合確認と引率者からの注意事項の説明を受けたあと、適宜各自でチェックインの手続きを行う。パスポートと航空券を用意しておいて下さい。
- ・カウンター入口で「預け荷物」のX線検査を受けます。
- ・カウンターに並び、順番がきたら航空券とパスポートを提示します。座席のリクエストがあれば早めに告げて下さい。
- ・「預け荷物」をベルトコンベアに乗せます。最終目的地でのタグが取り付けられます。ロストバゲージ（到着空港で荷物が出てこない）を防ぐために、ここで渡される半券に記載された最終目的地が間違っていないかを必ず確認して下さい。
- ・パスポート、航空券、搭乗券（ボーディングパス）を受け取り、カバン等に確実にしまった後にチェックインエリア外に出ます。

■セキュリティ検査

- ・出発口のセキュリティ検査場に行きます。列が進む途中で「搭乗券」の提示が求められるので、あらかじめ用意しておきましょう。
- ・パソコンを持っている方は、ゲート手前で取り出し、預け荷物とは別に検査を受けます。
- ・荷物（特に財布、携帯電話などの貴重品）を間違えて他人に持って行かれないように注意を払いましょう（同様に他人の荷物も持っていかない）。
- ・パスポートと搭乗券を用意して、出国審査のカウンターに並び審査を受けます。
- ・出発ゲートの待合場所へ移動します。公衆電話やトイレ、売店があります。搭乗のアナウンスがあるまで待機します。

【飛行機内において】

- ・席に座っているときは常にシートベルトを締めて下さい。
- ・長時間同じ姿勢のまましていると、エコノミークラス症候群が発症しやすくなります。こまめに水分を摂り、軽い屈伸運動をするとよいでしょう。
- ・酔いやすくなりますので、アルコール類は控えて下さい（未成年の飲酒は厳禁）。
- ・電波を発する電子機器（携帯電話など）の使用は一切禁じられています。電波を発していない機器（デジタルオーディオなど）については使用可能ですが、離着陸時の使用は禁止されています。
- ・着陸してから航空機が停止するまでは席を立たないようにしましょう。頭上の収納スペースから荷物が滑り落ちてくる場合があります（他人が開けているときも同様です）。

【目的地の空港において】

- ・手荷物など忘れ物がないことを確認してから、航空機を降ります
- ・「arrival」あるいは「immigration」のサインを目指して進みます。
- ・パスポート、入国書類を手に入国審査カウンターに並びます。
- ・ターンテーブルに移動し「預け荷物」を回収します。この時、荷物が汚損していたり、ロストバゲージに遭ってしまった場合は、窓口に申し出ましょう（※）。
- ・税関で入国書類とパスポートを提示します。

※ロストバゲージに遭った場合、荷物を預けた際に貰う半券を持って、バゲージ・クレームエリア（ターンテーブル付近の各航空会社の窓口）へ行き申請します。書式があるので、名前や連絡先（滞在ホテル）、半券の番号、無くなった荷物の形状、色や特徴などを記入し、係員にいつ荷物が手元に届くのかなどを確認しましょう。その後、保険会社に連絡をして下さい。

6. その他注意事項

【金銭管理】

お金は、少額の現金とクレジットカードを持参することを勧めています。クレジットカードで支払える場合も多いですが、小さな出費は現金がないと不便です。

■現金

キャッシュレスが進んでいると言われる国でも、現金をある程度持っている必要はあります。ただし、多額の現金を持ち歩くのは危険です。

■クレジットカード

クレジットカードは、買い物や現地通貨のキャッシングにも使用できます。多額の現金を持ち歩かずに済むため便利です。カードは、VISA や Master など国際提携カードが安心です。

キャッシングには、暗証番号が必要であり、また一度に引落せる金額などに制限があるため、事前にキャッシングの手数料を含め発行会社に確認しておいて下さい。現地で現金を引き出すと、翌月には日本の銀行口座から円に換算した額が引き落とされます。

クレジットカードを使うときの注意：

- ・暗証番号に分かりやすい番号は使わない(例:誕生日など)
- ・紛失の際の連絡先や、カード番号を控えておく
- ・カード番号を絶対に他人に教えない
- ・信用できる店以外では使わない
- ・カード使用の際は、サインをする前に金額が間違っていないか、通貨の単位が記入されているかをしっかりと確認し、控えを必ず受け取る
- ・現金のキャッシングを行う際には、周りに不審な人物がいないか十分に注意する

【パスポート、ビザ（査証）】

パスポートは渡航前に必ず有効期間と査証欄の余白の確認を行って下さい。不足している場合には、必ず渡航前に更新申請を行って下さい。パスポートの更新（切替発給）は有効期間が1年未満になると可能です。

海外の長期滞在や国によってはパスポートの他にビザを必要とする国があります。ビザを必要とする国の条件は、目的や期間によって異なります。国によっては取得に時間がかかる場合もありますので、申請に必要な書類をそろえる時間も考慮しておく必要があります。また、渡航期間が一定の長期間となる場合は、渡航先の国で外国人登録をする必要があります。申請に必要な書類を渡航前に用意しておいて下さい。

【お土産】

渡航先でお世話になるホストファミリー等の重要な関係者には、お土産を持っていくなどの気配りをしましょう。

お土産は高価なものである必要はありません。折り紙やポストカード、箸など、日本的なものが喜ばれるようです。

第4章 渡航直後の実施事項

1. 大学への到着連絡

現地の滞在先（ホテル、ホームステイ先等）に到着したら、速やかに大手前学園へ無事に到着した旨をメールで知らせて下さい（引率者がいる場合は、大手前学園への連絡は引率者が行います）。

【大手前学園の連絡先】

対象学部	連絡先(e-mail)
現代社会学部、総合文化学部、メディア芸術学部、短期大学	国際交流センター kokusaic@otemae.ac.jp
健康栄養学部、国際看護学部、専門学校	教務学生課 sgakumu@otemae.ac.jp

2. 渡航先大学の危機管理体制の把握

留学先大学でのオリエンテーションには必ず参加し、緊急時の対応ルールを把握して下さい。

3. 在外公館での手続き

旅券法で海外に3ヶ月以上滞在する日本人は、日本国大使館または総領事館に「在留届」を提出することが義務付けられています。これは、災害やテロ等の緊急時の安否確認、退避の手配などの連絡・保護が在外公館から受けられるようにするためです。

大手前学園では、渡航期間が1ヶ月以上の場合、「在留届」を提出することを義務付けています。

在留届の提出方法		注意事項・備考
ウェブ サイト 経由	下記の専用サイトで登録 外務省 ORRnet http://www.ezairyu.mofa.go.jp/	電子メールアドレスが必要。 渡航先に実際に居住してからの届出となる（渡航前には届出できない）。 ※住所変更や「帰国届」の提出も可能。
窓口 持参	【用紙の入手方法】 日本国内： ・各都道府県の旅券窓口で入手 ・外務省 HP から用紙（PDF）をダウンロード http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/image/zairyu.pdf ・外務省音声自動応答システムにアクセスして FAX で入手（03-5501-8490） 渡航先：渡航先の最寄りの在外公館窓口で入手 【提出方法】 ・渡航先の在外公館の窓口を持参、または郵送あるいは FAX	住所変更や、「帰国届」も全て用紙記入による届出となる。

4. その他

留学先等の関係者に緊急時の大学の連絡窓口を知らせておいて下さい。

第5章 滞在中の留意事項

1. 自分の身は自分で守る

危険な場所や地域には立ち入らない、夜間一人で出歩かない、ヒッチハイクなど知らない人の車に乗らない、自分の所在地（住所）を知らない人に知らせないなど、自分の行動は自分で責任を持ち、安全第一として行動すること。留学先では周囲の人々の行動や習慣を良く観察し、現地の人が出歩かない時間は外出を避け、現地の人々と同じような行動するとよいでしょう。服装も華美で目立つようなものは避け、現地の学生に合わせましょう。

2. 警戒心を持つ

犯罪者の標的にならないよう絶えず周りを警戒することを怠らず、危険を感じたらすぐに反応できるようにして下さい。特に貴重品の管理には常に細心の注意を払って下さい。また、現地の雰囲気慣れた頃が最も危険とされています。滞在が長くなると気が緩みがちです。行き先の連絡、所持品の管理、部屋の施錠など危機管理については自分なりに対策をたてて下さい。

3. 強盗に襲われたときは抵抗しない

万が一、強盗に襲われたときは抵抗せず、現金を渡すようにして身の安全を第一に考えて下さい。犯人を直視しない、犯人に武器を取り出すと誤解されるような行動は避け、現金の位置を示して犯人に取り出させるようにして下さい。

4. 手荷物はいつも手放さない

友人がいたとしても貴重品は自分で管理をして下さい。一瞬でも油断は禁物です。貴重品は手から離さず、足元の荷物は両足でしっかり挟むようにしましょう。

5. 現地の人と同じように行動する

留学先では周囲の人々の行動や習慣を良く観察し、現地の人が出歩かない時間は外出を避け、現地の人が近づかない場所は避けるなど、現地の人々と同じように行動することを心がけて下さい。服装も華美で目立つようなものは避け、現地の学生に合わせた方が無難です。

6. 異文化理解とカルチャーショック

自分が慣れ親しんだ環境を離れて海外生活を始めることで、たくさんの発見があります。同時に、カルチャーショックや異文化への適応に悩むこともあります。これは自然なことです。自分を責めたり、自分の価値観だけで物事を判断したりするのではなく、多様な文化を理解するための成長の機会と捉えましょう。一人で悩まずに友達や現地大学の先生などに相談するほか、スポーツや趣味などで気分転換をしてみましょう。また、カルチャーショックは自分だけではなく、誰にでも起こりえるもので、何度も海外生活を経験した人でも、はじめての土地では少なからず経験します。

【対処法】

- ・ 日本的な価値観で物事を判断しないように心がけましょう。
- ・ 一人でひきこもらず、趣味やスポーツ等を通じて交友関係を広げましょう。
- ・ 自分にあったストレス解消法を見つけましょう。
- ・ 自分の気持ちを表現しましょう。

7. 生活環境における問題

ホストファミリーや寮でのルームメイトとのコミュニケーションは時に楽しく、時に難しいものです。問題が生じて、どうしても解決しない場合は、留学先大学の担当者と相談し、問題を放置しないようにして下さい。

【言葉の壁 カルチャーショック】

留学先では、授業中だけでなく、日常生活のあらゆる場面で外国語を使う機会があります。また、使うことが言語修得の上で一番効果的です。しかし、自分の期待よりも言葉が通じなかったり、現地の人が使っている言葉がわからずに取り残された気持ちになったり、語学力の伸び悩みを感じるなど、「言葉の壁」を経験する人が大勢います。この「言葉の壁」は、以下の点を念頭におきながら、日々努力を続ければ必ず乗り越えられます。

- ・ 進歩を実感しにくいですが、毎日の積み重ねで必ず力はつきます。
- ・ わからないときは積極的に質問しましょう。ゆっくり話してほしい時は、きちんと意思表示をしましょう。
- ・ 間違いを恐れず、積極的に学んだ言葉を使いましょう。

第6章 緊急時の通報・連絡体制

1. 危機レベルの判定および対応体制

報告された危機情報に基づき、危機管理担当理事が危機レベルを判定します。危機レベルの判定は、危機が及ぶ範囲や想定される影響度・損失の程度に応じて総合的に判断します。

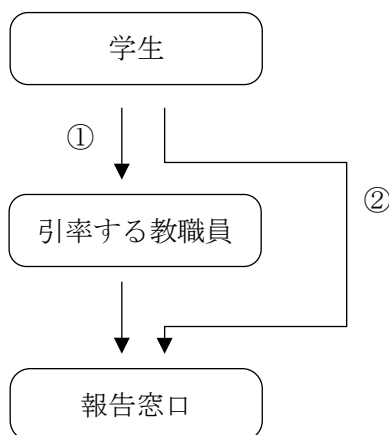
また、危機レベル毎の対応体制は下表を原則としますが、危機の内容や各部局で取りうる対応なども考慮の上、決定します。

危機レベル	内容	対応する組織	対策本部長または対策の指揮を執る者
A	危機による被害の程度や社会的影響が大きく、全学的な対応が必須と考えられる危機	全学で対応 (危機対策本部を設置)	理事長
B	危機による被害の程度や社会的影響は限定的だが、部局単独での対応が困難(適切な支援が必要)と考えられる危機	全学で対応 (危機対策本部は設置しない)	国際交流センター長 副学長(大阪担当)
C	危機による被害の程度や社会的影響が限定的な危機	各部局で対応	事務局長 事務長

2. 危機の報告窓口および報告ルート

海外渡航中に危機を認知した場合、以下の手順で対応して下さい。

学生	①危機を認知した場合、速やかに引率の教職員に連絡を行う。 ②引率の教職員が不在の場合、以下の報告窓口のいずれかに連絡を行う。
教職員	危機を認知した場合、または学生より報告を受けた場合、以下の報告窓口のいずれかに連絡を行う。



報告窓口は次頁の通りです。いずれかに連絡して下さい。また、報告した危機の情報は、大学からの指示がない限り、他者に漏らさないよう注意して下さい。

【問題解決の方法と連絡先】

■実施すること

困ったこと、問題が生じた場合	<ul style="list-style-type: none"> ・現地大学関係者・ホームステイ先と連絡・相談する。 ・大手前学園に連絡する。
緊急事態が生じた場合	現地関係者と大手前学園連絡先に連絡する。

■大手前学園連絡先

対象学部	連絡先（平日）	連絡先（時間外）
現代社会学部 総合文化学部 メディア芸術学部 短期大学	平日 9:00~17:00（日本時間） 国際交流センター TEL:81-(0)798-32-5018 e-mail:kokusaic@otemae.ac.jp	大手前大学守衛室 TEL: 81-(0)798-32-5043 ※守衛から国際交流センター長、国際交流センター課長に連絡が入る。
健康栄養学部 国際看護学部 専門学校	平日 9:00~17:00（日本時間） 教務学生課 TEL:81-(0)6-6941-7063 FAX:81-(0)6-6946-9458 e-mail: sgakumu@otemae.ac.jp	大手前大学守衛室 TEL: 81-(0)798-32-5043 ※守衛から国際交流センター課長、事務長に連絡が入る。

3. 報告すべき危機の範囲

海外渡航中に危機を認知し、次の①～⑥のいずれかに該当する場合、前記「2. 危機の報告窓口および報告ルート」に従い、迅速に危機情報を報告して下さい。危機に該当するか判断の難しい場合でも、危機の予兆を過小評価せず、積極的に報告して下さい。

また、以下の項目に関わらず、海外渡航中になんらかの不安を感じた場合には、同様に窓口ご連絡してもかまいません。

項目	報告基準
①人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に身体の障害（ケガまた疾病で、通院を必要とする程度以上）が発生した、またはその恐れがある場合 ・本人が第三者からセクハラ・パワハラ等を受け、精神的苦痛を被った場合 ・第三者に身体の障害（ケガまた疾病で、通院を必要とする程度以上）を負わせた場合
②物的被害	第三者に1万円以上の損失（直接・間接を問わず）を発生させた、またはその可能性がある場合
③マスコミの動向	テレビ、新聞、雑誌等の媒体を問わず、マスコミにより、 <ul style="list-style-type: none"> ・本人、大手前学園および渡航先の学校等に対する批判的内容の報道 ・事件・事故などのネガティブな事象に絡んだ文脈における大手前学園および渡航先の学校等の露出 がなされている、またはその可能性がある場合
④警察・消防への通報	盗難や交通事故等の事件・事故に遭遇し、警察・消防へ通報を行った場合
⑤法令等への抵触	法令等へ抵触する行為を行った、またはその可能性がある場合
⑥海外旅行保険の適用	海外旅行保険の保険金を請求する可能性がある事象が発生した場合
⑦自然災害の発生	渡航先の地域において、日常生活に支障が出るような自然災害が発生した、またはその可能性がある場合
⑧政情不安・騒乱の発生	渡航先の地域において、デモ活動やテロ行為の発生等による政情不安や騒乱が発生した場合、またはその可能性がある場合

4. 危機情報の報告項目

危機の報告を行う場合は、可能な限り以下の点を踏まえて報告して下さい。報告にあたっては、電話による口頭での報告、携帯電話のメール等による報告どちらも可とします。

<input type="checkbox"/> 発生日時（または認知日時） <input type="checkbox"/> 発生場所（住所・施設名称等） <input type="checkbox"/> 危機事象の概要（何が起きたか） <ul style="list-style-type: none"> - 事故等の種類（事件・事故・盗難・物損・その他） - 事故等の内容（人的・物的被害の状況を含む） - 今後の被害等の拡大予想 - 事故等の原因 	<input type="checkbox"/> 現在までの対応状況（関係機関への連絡状況含む） <input type="checkbox"/> 緊急対応を要する事項等 <input type="checkbox"/> 報道の状況 <input type="checkbox"/> その他
---	--

5. 海外への派遣の判断基準

学生の海外への派遣の実施、中止、延期、継続、途中帰国は、派遣先地域の治安情勢等の各種海外安全情報（「第7章 付録 2. 情報収集先一覧」記載の情報）を勘案し、国際交流センター長が判断します。ただし、以下のようなケースに該当した場合には、原則として途中帰国や海外派遣を中止・延期します。

- 派遣（予定）される学生の体調が著しく悪化し、海外での滞在が困難と判断される場合
- 派遣（予定）先の教育機関において、就学できない事象が発生した場合
例：渡航予定先の学校が倒産した、渡航者が退学処分となった、など
- 派遣された学生が現地にて法令に抵触する行為を行った場合
- 大規模な自然災害等の発生により、現地における安全確保が困難と想定される場合

下記の判断基準は、外務省が発出する「危険情報」のレベルに応じた対応を示しています。

「危険情報」は、渡航・滞在中にあたって特に注意が必要と考えられる国・地域に発出される情報で、その国の治安情勢やその他の危険要因を総合的に判断し、それぞれの国・地域に応じた安全対策の目安を知らせるものです。対象地域ごとに4つのカテゴリによる安全対策の目安が冒頭に示され、詳細な治安情勢や具体的な安全対策などを掲載しています。

ただし、事態が刻々と変化するような状況では、危険情報の発表を待っているのは手遅れになることもあるため、大手前学園では本情報も参考としつつ、現地からの情報等も踏まえて、派遣の実施、中止、延期、継続、途中帰国の判断を行います。

外務省の「危険情報」		既に渡航している学生の渡航継続・中止等の判断基準	これから出発する学生の渡航可否の判断基準
段階	内容		
0	危険情報なし	—	—
1	十分注意して下さい。	継続 (情報収集のみ)	継続 (情報収集のみ)
2	不要不急の渡航は止めて下さい。	注意喚起の実施	中止・延期の検討
3	渡航は止めて下さい。 (渡航中止勧告)	自宅待機・安全な施設への避難	中止・延期の検討
4	退避して下さい。渡航は止めて下さい。 (退避勧告)	帰国または第三国への避難(出国自体が困難な場合、在外公館への保護を求める)	中止・延期

第7章 海外で想定される危機とその対策

海外で発生が想定される危機について、発生した場合の影響とともに、その予防策および万一の遭難時に、とるべき行動のポイントを次に示します。

海外渡航中は、後述のような危機発生時に備え、常に緊急連絡カード（「第7章 付録 1. 緊急時通報先一覧手持ちメモ・緊急連絡カード」に掲載）を携帯するようにして下さい。事故に遭い意識不明の状態となった場合などに、周囲に皆さんの身分や所属を知らせ、スムーズな救護活動につなげられるようにするためのカードです。

1. 交通事故

途上国などの一部の国・地域では、交通環境の整備が不十分である、交通ルールが確立されていない、車両整備が徹底されていない、運転マナーが悪いといった事情があり、日本における交通ルールの感覚でいると非常に危険です。

万が一、交通事故の当事者となった場合、加害者、被害者いずれの場合も、心身ともに大変な痛手を被ることになります。加害者となった場合は、被害者への補償対応はもちろん、その国の罰則に従わなければなりません。また被害者となった場合、死亡や重度な後遺障害となる可能性があり、家族も精神的に大きなダメージをうけます。事故の相手方が無保険の場合もあり、総じて賠償レベルは日本と比べて低いため、自衛策が必要です。

【予防・事前対策】

- ・絶対に自身では運転しない。研究などで自動車等での移動が必要となる場合には、必ず教職員等の指示に従い、運転手付の移動手段を確保する。
- ・あらかじめ現地の交通ルール・交通事情を把握しておく。また、外出時はルールを遵守する。
- ・歩行時にはなるべく歩道の内側を歩くようにし、自動車やバイク等に十分注意する（途上国などでは歩道がなかったり、道路が整備されていない地域もあるため、徒歩での外出時には常に注意を怠らない）。

【緊急時の対応】

とるべき対応	対応主体
引率の教職員（引率がいない場合は所属する部局）に連絡する。	本人 or 本人以外の学生
現地で所属している教育機関等の協力を求める。	引率の教職員等現地責任者（不在の場合は本人）
状況に応じ、現地の警察・救急に連絡する。 ※学生が自身で連絡をする場合には、可能な限り現地教育機関の支援をおおぎ、現地のルールに準じて行動	引率の教職員等現地責任者（不在の場合は本人）
在外公館に連絡する。 ※負傷した場合および加害者になった場合は特に連絡が必要	引率の教職員等現地責任者（不在の場合は本人）
保険会社に連絡する。 ※被害の大小にかかわらず、事故の対応はすべて保険会社に任せる。 ※事故の相手に対し補償を確約するような発言や個別交渉は避ける。	本人

2. 疾病・感染症

海外では、気候や時差、食習慣の違いなどから体調を崩す場合が多々あり、抵抗力が弱まった結果、感染症などの病気にかかりやすくなりがちです。また、衛生管理レベルの違いから飲料水や食品に起因する食中毒も多々発生しています。大抵の場合は、十分な休養や医薬品の処方により回復しますが、重篤となったり、死亡したりするケースも発生しています。

医療レベルについては、日本と同等のものは期待できない地域も多くあります。病状によっては日本へ搬送されることとなります。また、長期間の入院を余儀なくされた場合、本人だけでなく家族にも大変な負担を強いることとなります。

【予防・事前対策】

- ・渡航前に予め渡航先の感染症情報を把握し、必要な予防接種を受ける。また、現地で受けるべき予防接種についてはその病院や保健所に確認する。
- ・感染症について現地国での流行状況と予防方法を把握し、実践に努める。
 - 例：屋台等の衛生状態の悪い場所での飲食は避ける。
 - 野生の動物には近づかない。
 - 飲食店などでは氷の入った飲み物は避ける。
 - ペットボトル飲料は未開封の状態にあるか確認してから飲む。
- ・日本語が通用する、十分な医療レベルにある等条件の良い病院の所在地・連絡先をあらかじめ複数リストアップしておく（保険会社等が推奨する病院を参考にする）。
- ・既往症がある場合は、病名・症状・常用薬・搬送希望先病院等を英文で記載したメモを常に携帯する。
- ・最低限の常備薬（下痢止め、頭痛薬、消毒液等）は日本から持参する。

【緊急時の対応】

とるべき対応	対応主体
現地のかかりつけ医の診断を受ける。かかりつけ医がいない場合は、保険会社の窓口連絡して病院を紹介してもらい、診察を受ける。	本人
入院治療が必要と診断された場合は、引率の教職員等の現地責任者もしくは部に連絡する。	本人
搬送が必要と判断された場合は、保険会社窓口連絡し搬送を手配する。	引率の教職員等現地責任者

3. 盗難・強盗

海外での日本人の事件・事故で、最も件数の多い被害の1つが盗難・強盗などの窃盗による被害です。海外に行くと、日本人は裕福かつ身の危機意識も薄いと考えられており、ターゲットとされやすいといえます。盗難は手口も多様で、銀行・両替所等から出てきたところを狙って襲撃したり、滞在先の門番やメイド等が手を組んで犯行に及ぶケース、空港で現地ガイドのフリをしてターゲットに近づくケースなど、様々報告されています。

また、強盗の場合は、ナイフで脅す、首を絞めるなど凶悪な手段を用いるケースが多く、場合によっては生命の危機に瀕したり、怪我による後遺症が残ってしまうケースも発生しています。

【予防・事前対策】

- ・外出の際は、目立つ服装を避け、新品・華やかな装飾品等は身につけない。
- ・一人歩きはなるべく避け、見知らぬ人に親切に話しかけられても安易に信用しない。銀行を利用した後や、空港に到着した直後などは特に見知らぬ人物とは接しないようにする。
- ・多額の現金は持ち歩かない。貴重品は分散させて携帯するようにする。
- ・リュックサックや間口の広いバックは被害に遭いやすいので使用を避け、鍵のついているものや間口が完全に閉まるものを選ぶようにする。また、目が届くよう体の前側に掛かるように携行する。
- ・携行品補償付の海外旅行保険に加入する。
- ・治安の悪い地域や強盗が頻発する地域を事前に特定・反映した地図を作成しておく。外出する際は公共交通機関・タクシー・徒歩のいずれの場合でも危険な地域をコースに含めない。
- ・毎日同じ時間帯に同じコースを歩くなど、生活パターンを予測される行動は控える。

【緊急時の対応】

とるべき対応	対応主体
<ul style="list-style-type: none"> ・引率の教職員（不在の場合は所属の各部局）に報告する。 ・強盗に襲われた場合には、以下の点に注意して落ちついて対処して下さい。 <ul style="list-style-type: none"> - 強盗に遭遇したら、声を上げず、抵抗せず、指示に従う（抵抗すると犯人が逆上し、より危険になる可能性あり）。 - 金品を要求してきた場合、落ち着いて一定額を渡す。 - 犯人が立ち去り周囲の安全が確認できるまで、声を上げたり、騒いだりしない。 ・犯人が立ち去った後に引率の教職員（不在の場合は所属の部局）に連絡する。 	本人
<ul style="list-style-type: none"> ・盗難に気づいた際には、所轄の警察当局に被害届を提出する。 ・あわせて事故証明書の発行を依頼する（保険金を請求する際に必要）。 	引率の教職員等現地責任者（不在の場合は本人）
保険会社に連絡をとり、必要に応じて請求手続きを行う。	本人
盗難されたものに応じた対応を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ■パスポートの場合 <ul style="list-style-type: none"> ・在外公館に届け出て、帰国のための渡航書もしくは新規でパスポートの申請を行う。 ・渡航書は必要書類がそろっていれば当日または翌日以降に発行。パスポートは発行までに1週間程度要す。 ■クレジットカードの場合 <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカード会社に電話し、カードの差し止め手続きを行う。 ・必要に応じて暫定カードを発行してもらう（手数料がかかるケースあり）。 ■携帯電話の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話会社の専用窓口で連絡をし、通話停止の手続きを行う。 	本人

4. 誘拐

日本人を狙った誘拐事件はこれまでも多数発生しており、長時間の拘束状態により精神的にも身体的にも深刻な影響を受けたり、殺害される事態も発生しています。

日本にいる家族も事件が解決するまでの間、極度の緊張状態に置かれることとなり、精神的な苦痛は計り知れません。

【予防・事前対策】

- ・行動を予測されるのを避けるため、通学や買い物等のルートを随時変更する。
- ・行動予定を身近な人以外には知らせない。
- ・予兆を見逃さない。不審な電話、人・車による尾行等のおそれを感じた場合は、引率の教職員等現地責任者や必要に応じて警察・在外公館に相談する。

【緊急時の対応】

とるべき対応	対応主体
万一、誘拐・拉致された場合は、無用な抵抗は絶対にせず冷静に対応する。実行犯との間に人間関係を築くよう努める。	本人
誘拐・拉致の発生連絡を受けた場合、直ちに緊急時の通報・連絡体制に基づいて連絡する。	連絡を受けたもの

5. 暴動・デモ、テロ

局地的・小規模なデモであっても、インターネット等を使った呼びかけにより急速に拡大するケースが増えています。当局によって統制されるはずのデモであっても一部が暴徒化し、破壊・略奪行為を行うケースが頻発しています。

また、テロ行為については、これまで安全とされてきた地域を含めテロ事件等の発生が懸念される地域は拡大しています。近年では、公共交通機関やホテルなどの施設で爆弾テロが発生する例が増えています。特に外国企業や外国人は格好のターゲットとなりやすい傾向があります。

【予防・事前対策】

- ・ 関連情報の収集に努める。滞在国内の情勢に加えて、政治・宗教的な記念日や重要イベント、国際情勢等にも注意を払う。特に、在外公館からの連絡が随時受信可能な環境にしておく。
- ・ 情報を基に、破壊や略奪行為等が予想される、人が多い場所に不用意に近寄らない。
例：外国人の多いホテル・レストラン・観光地、繁華街、大規模なイベント実施会場（宗教・政治など）、公共交通機関（駅・空港・バスターミナル）、政府・軍の関連施設
- ・ 駅や空港等を利用する場合は、不審な人物やモノに細心の注意を払う。
- ・ デモが激化し、しばらく外出できなくなった場合に備え、水や保存食、日用品等を滞在先に備蓄しておく。
- ・ 連絡がつながるよう、携帯電話を常に充電された状態にしておく。

【緊急時の対応】

とるべき対応	対応主体
暴動やテロ等のうわさや発生の一報を受けた場合は、暴動や人ごみを避け、帰宅もしくはセキュリティの高い場所（大規模ホテル、在外公館等）に避難する。	本人
安全を確保してから、引率の教職員（不在の場合は所属する部局）に連絡する。	本人
在外公館に連絡し、避難状況等の報告を行い、今後の対処について指示を仰ぐ。	引率の教職員等現地責任者 （不在の場合は本人）
独断では行動せず、引率の教職員等の指示に従い対処する。	本人

6. 自然災害

自然災害は、地震、噴火、土砂災害、風水雪災（台風、集中豪雨、洪水、大雪、雷）等があげられます。日本においてはこれらの自然災害に対して、国や自治体、企業等により一定の対策が講じられていますが、海外では対策が必ずしも十分とはいえないケースが多く、被害がより甚大となる傾向があります。

自然災害は、発生時期や時間帯、発生地域、規模によって、被害の大きさや復旧までの期間が異なりますが、巻き込まれた結果、死亡または重傷を負う恐れがあります。また、発災中や直後から1週間程度は、外部と連絡が取りづらくなったり、物資の供給が十分に及ばなくなったりすることも予想されます。

【予防・事前対策】

- ・日ごろから、滞在国・地域での過去の発生事例等に基づいて、発生可能性のある自然災害を把握しておく。
- ・在外公館等を通じて、災害発生時の現地国政府の対応や在外公館の支援体制等について情報収集しておく。
- ・しばらく外出できなくなった場合に備え、水や保存食、日用品等を滞在先に備蓄しておく。
- ・連絡がつながるよう、携帯電話を常に充電された状態にしておく。

【緊急時の対応】

とるべき対応	対応主体
自然災害が発生した場合は、直ちに安全な場所に避難する。	本人
安全な場所に避難した後、現状を引率の教職員（不在の場合は所属の部局）へ報告する。	本人
在外公館に連絡し、避難状況等の報告を行い、今後の対処について指示を仰ぐ。	引率の教職員等現地責任者 （不在の場合は本人）
独断では行動せず、引率の教職員等の指示に従い対処する。	本人

第8章 家族の心構え

渡航に関して、家族として対応しておくべきポイントを次に示します。

1. 出発前

【連絡方法を確立し、連絡先やスケジュールを共有する】

緊急時に備え、ご子息ご息女と直接連絡が取れる方法（例：携帯電話など）を確立し、渡航先の大学や、滞在先の宿舎等の連絡先を把握しておく必要があります。また、定期的に連絡することを予め決めておき、スケジュールを共有することが望ましいといえます。

【渡航先の危険への対処について話し合う】

渡航先で想定される危険と、その危険に対してどのような予防策が有効か、また実際に危機が発生した場合にはどのような行動をとるべきか、について家族で話し合い、危機への対応方法について相互に理解を深めておく必要があります。

【保険の補償内容を把握する】

保険の補償内容を確認し、補償対象の事由と免責事由を確認しておく必要があります。

2. 渡航中

【平常時の心構え・行動】

■定期的に連絡をとる

ご子息ご息女の近況を把握するために、定期的に連絡をとっておく必要があります。ご子息ご息女が旅行などで渡航先の宿舎等を離れる場合は、行き先や滞在先を把握しておきます。最近では、留学しているご子息ご息女を装った「オレオレ詐欺」も発生しています。

■定期的に渡航先の国や地域の危険情報を収集する

信頼できる情報源から定期的に危険情報を収集し、その上で想定されうる危険を把握し、必要に応じて共有することが望ましいといえます。情報源については、「第10章 付録 2. 情報収集先一覧」を参照して下さい。

【緊急時の心構え・行動】

■基本的な心構え

平静を保ち、不確実な情報に惑わされないようにする必要があります。大学や警察、外務省からの連絡・指示を待ち、むやみな行動は控える必要があります。

■情報の把握

「第10章 付録 2. 情報収集先一覧」に記載した情報源等から正確な情報を把握する必要があります。

■大学への連絡・照会

ご子息ご息女から、何らかのトラブルに巻き込まれた旨の連絡があった場合は、速やかに大学の緊急連絡窓口（P.15）へ連絡します。

■安否確認

ご子息ご息女の渡航先で自然災害やテロなどの危機が発生し、ご子息ご息女の所在や安否が確認できない場合は、まずご子息ご息女の滞在先などに連絡し、所在や安否の確認を行います。確認が取れない場合は、大学の緊急連絡窓口へ連絡し、その後の対応方法についての連絡や指示を仰ぎます。

第9章 帰国時の対応

1. 帰国時の留意点

研修を終えて帰国することとなりますが、帰国に際して行うべきことは多々あります。また、生活環境も大きく変化するため、心身ともに一定の負荷がかかります。ここでは、帰国に際しての留意点を記載します。

【関係者への挨拶・連絡】

お世話になったホストファミリーや関係者にお礼の挨拶をしておきましょう。区切りとしてしっかりと感謝を伝え、お別れの挨拶をすることは、今後の信頼関係を育てていくためにも大切です。留学経験を振り返り、きちんと謝意を伝えましょう。

【ビザや在留資格に関する手続き】

留学の場合、留学を終えて帰国する際は、在留管理上何らかの手続きが必要になる場合があります。その手続きを怠ると、再度その国に入国する際、問題が生じることがあります。国によって異なりますので、帰国前は必ず留学先機関に報告し、指導に従って下さい。

【在外公館での手続き】

渡航時に在外公館に在留届を提出した場合、帰国時には「帰国届」の届出が必要になります。届出方法については、在留届の届出方法（インターネットでの電子届出または書類での届出）により異なります。「第4章 渡航直後の実施事項 3. 在外公館での手続き」を参照して下さい。

【現地で開設した各種サービスの閉鎖・解約】

現地で銀行口座を開設した場合には、口座維持手数料が発生することもあるので解約しておく必要があります。ただし、渡航先教育機関から、清算用に口座を残しておくよう指示された場合は、従って下さい。

2. 帰国時の健康管理

【帰国後の体調不良時への対応】

■大学への報告

帰国時もしくは帰国後に体調不良を感じた場合は、引率の教職員もしくは「第6章 緊急時の通報・連絡体制」記載の窓口に報告して下さい。

■検疫所への相談

帰国時に異常があれば、検疫所の健康相談室に相談する方法があります。また、帰国後、数日してから体調が悪くなることがあります。検疫所では帰国後の健康相談も行っているので、「第10章 付録 2. 情報収集先一覧」を参照し、最寄りの検疫所（関西空港または福岡市内）に相談して下さい。

【医療機関での受診】

海外渡航、特に発展途上国に渡航した後、少なくとも6か月の間は、渡航関連の感染症が生じる可能性があります。医療機関にかかる際には、必ず海外渡航したことを告げて下さい。

デング熱などによる症状は、ほぼ帰国後3週間以内にみられますが、マラリアなどの寄生虫による感染症や、一部の細菌による感染症の症状は、数週間から数か月あるいは数年たってから生じることもあります。

■発熱

帰国した渡航者にみられる発熱の場合、重大な感染症から生じている可能性があります。特に、マラリアやデング熱の流行地域から帰国し発熱がみられる場合には、必ず医療機関にかかって下さい。マラリア、中でも熱帯熱マラリアは急速に悪化することがあります。

■下痢

帰国してからも下痢の症状がおさまらない場合には、ジアルジア症（ランブル鞭毛虫症）やアメーバ赤痢といった寄生虫による感染症も考えられます。放置すると内臓に問題を起こす場合もありますので、原因をしっかりと調べてもらうことが重要です。

■皮膚の異常

皮膚の異常も渡航後によくみられる症状です。発熱も同時にみられる場合、何らかの感染症をともなっていることが多く、速やかに医療機関を受診する必要があります。

海外渡航後の体調不良には、思わぬ感染症が潜んでいる可能性があります。早めに医療機関を受診しましょう。医療機関の受診にあたっては、症状に加えて次の情報を整理しておき、医師に伝えましょう。

<input type="checkbox"/> 渡航先	<input type="checkbox"/> 渡航期間	<input type="checkbox"/> 渡航の目的	<input type="checkbox"/> 渡航中の行動
<input type="checkbox"/> 宿泊先の状況（虫除け対策ができていたか）			<input type="checkbox"/> 渡航前の予防接種

【リエントリーショックへの対応】

リエントリーショックとは、異国の文化に順応した後に帰国し、再度自国の文化に触れた際に感じるもので、渡航中に発生するカルチャーショックが帰国後に発生するというものです。対処方法は個人で異なりますが、まずは、こうした症状が帰国時にはつきものだということを把握することが必要です。

また、同じように渡航先から帰国した人と話をすることも有効な対処法です。同じような体験をして、さらに帰国後のストレスを同じように感じている相手との会話は、お互いに救われるところがあるでしょう。渡航経験を振り返り、より多くの気づきを得るためにも、そのような機会を積極的に見つけて活用して下さい。

3. 帰国時の大学での手続き

長期研修あるいは交換留学に参加した学生は、「単位認定届」と「帰学届」を各部局に提出して下さい。

第10章 付録

1. 緊急時通報先一覧手持ちメモ・緊急連絡カード

【緊急時通報先一覧手持ちメモ】

連絡先名		電話番号・メールアドレス	備考
大手前学園	〇〇課	TEL FAX E-Mail	
	引率教職員		
渡航先の施設 (留学先大学、宿泊先など)			
現地警察			
現地病院 (救急)			
管轄の日本大使館・領事館			
保険会社			

【緊急連絡カード】

Emergency Contact Card	Emergency Contact Card
氏名/Name in Japanese: ローマ字氏名/Name in Latin Alphabet: 生年月日/Date of Birth: 旅券番号/ Passport Number: 国籍/Nationality : 血液型/Blood Type: A B O AB (Rh + -) アレルギー/Allergies: 既往症/Previous Illness:	<現地緊急連絡先 (Local Contact) > *引率者がいる場合に記入 担当/Contact Person: 電話番号/Phone Number: 滞在先/ Place of Stay <日本国内緊急連絡先 (Contact in Japan) > 大手前学園 〇〇課 〇〇 University Research Promotion and International Affairs Department International Exchange Division Phone1 81- Phone2 81-
〇〇 University	〇〇 University

※必要事項を記入し、印刷後、切り取って、真ん中の線で二つ折りにして下さい。

※財布・カード入れなどに入れて常時携帯しましょう。

※ラミネート加工などすると便利です。

2. 情報収集先一覧

【国内や渡航先で利用できる情報源】

情報源と入手可能な情報、入手方法		情報の概要・特徴	情報の種類				
			安全	健康	生活	その他	
外務省	【必須】 海外安全 ホームページ	http://www.ansen.mofa.go.jp/ http://www.ansen.mofa.go.jp/m/mbtop.html ↓ (携帯版)	国・地域別の危険情報や、安全確保上の参考情報	○	○		
	【必須】 たびレジ (メール配信)	http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/regist/index.html 	当該在外公館が管轄する国や地域のニュース(緊急時情報など) 登録は2種類あり ・渡航者用：たびレジ登録 ・情報収集用：簡易登録	○	○	○	○
	在外公館医務官情報 (世界の医療事情)	http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/	世界各国の医療事情		○		
厚生労働省	海外赴任者のための感染症情報	http://www.forth.go.jp/	海外で流行している感染症の情報		○		
	厚生労働省検疫所所在地一覧	http://www.mhlw.go.jp/general/sosiki/sisetu/ken-eki.html	検疫所一覧(各検疫所には健康相談室があり、帰国後の健康相談が可能。)		○		
	日本在外企業協会(JOEA) 「海外安全情報」	http://www.joea.or.jp/safetyinfo	主に英米政府が発信している海外安全情報(英語)	○			
各種団体	国際協力機構(JICA) 「国別生活情報」	http://www.jica.go.jp/seikatsu/index.html	各国の生活情報(短期滞在者用のコンパクト版もある)	○	○	○	○
	JICA 図書館ポータルサイト	https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/Index.html	国際業務に関連する図書情報				○
	渡航医学センター西新橋クリニック	http://www.tramedic.com/	海外へ赴任する邦人向け医療情報 「よくある質問-渡航地域別推奨ワクチン」を参照		○		

【渡航先で利用できる情報源】

留学先大学	■照会方法 面談、電話、電子メール、FAX など ■情報入手方法 ホームページ、発行するメールマガジン、情報誌 など
在外公館	
日本人会	
日本人学校	
行政当局(警察や消防など)	
日系メディア現地支局	
各メディア	テレビ、新聞、ラジオ、ホームページなど

3. 渡航前チェックリスト

【渡航前チェックリスト】

チェック項目		チェック	
渡航前	1	パスポートの有効期限・査証欄の余白は十分か	
	2	留学ビザは取得できたか	
	3	予防注射を受けたか（必要な人のみ）	
	4	海外旅行保険に加入したか	
	5	大学での渡航手続きや提出物に漏れがないか	
	6	必要な人は健康診断を受けたか（必要な医薬品の処方を受けたか）	
	7	実家や関係者へ渡航中の緊急連絡先を知らせたか	
	8	定期的に発生する支払い（家賃等）を済ませたか	
	9	空港への交通手段を確保したか（国内） 現地空港から宿泊先への交通手段を確保したか（現地）	
渡航当日	10	ガス・電気・水道の元栓を確認したか	
	11	部屋を施錠したか	
	12	パスポート、現金、航空券を持ったか	

【持ち物リスト】

内容		備考
スーツケースなど	預荷物	施錠できるスーツケース（TSAロック付スーツケースを推奨）リュックサックの場合は施錠の工夫をする
	機内持込荷物	キャリーバッグやポストンバッグなど、3辺の和が115cmを超えない手荷物1個
大切な書類など	海外旅行保険証券	家族や留守宅に写しを保管します。
	パスポート	紛失時の再発行に備えてコピーを取っておきます。
	航空券	紛失時の再発行に備えてコピーを取っておきます。
	旅程表	コピーした書類、旅程表などはクリアファイルに入れておくと便利です。
	研修資料	
お金	顔写真	パスポートなどの紛失に備えます。
	現金（日本円、現地通貨など）	現地通貨という選択肢がありますが、必要経費を参照し、最小限必要な額を持ちましょう。
衣類・日用品	クレジットカード	
	夏季の場合の一例 シャツ（襟付きの半袖、薄手の長袖）、長ズボン、Tシャツ、薄手のセーター、半ズボン、下着、靴下、靴、スリッパ、帽子、洗面具（タオル、歯ブラシ・歯磨き粉、石鹸など）、パジャマ、アダプター、変圧器	研修先では、簡素で清潔な眼装を心がけて下さい（服装は相手への敬意の表現です）。また、宗教施設を訪問する際には、過度に肌を露出する服は避け、その宗教に敬意を示す態度を心がけましょう。 ※着替えは、現地の気候に合わせて準備しましょう。
健康・衛生	一般薬（胃腸薬・頭痛薬・風邪薬・目薬・かゆみ止め・下痢止めなど）、絆創膏、体温計、防虫剤（できれば、ウェットティッシュタイプか噴霧式/ガス入りスプレーは不可）、リップクリーム、日焼け止めクリーム、爪切り、耳かき、ビタミン剤など	
小物	カメラ、時計、ノート、筆記用具（鉛筆、3色ボールペンなど）、地図、小型ダイヤル錠、細いロープ・紐（洗濯物の部屋干しに便利）、レインコート、折りたたみ傘、個人の嗜好品など（非常食・キャンディー、味噌汁・スープ、文庫本など）	

4. 住居のチェックリスト

ホームステイ先やホテルなど居住する周辺的环境に関して、次のチェックリストで該当する項目がある場合は、安全上問題がある可能性があります。極力是正するよう努めて下さい。

No	チェック項目		評価	是正例
1	立地	住居から通学・買い物のルート上に治安の悪い地域、軍・政府の施設等がある。		遠回りでも安全なルートを複数設定する。
2		周辺地域での犯罪発生事例を把握していない。		現地メディア、邦人コミュニティ等情報ソースを確保する。
3	情報	近隣住民と交流がない。		学校や地域活動等をきっかけに交流をもつ。
4		警察、救急、病院、日本大使館等の連絡先を知らない。		通常時より確認しておく。
5		外来者が直接玄関や窓付近までたどり着くことができる。		極力、外壁・オートロックがあり、警備員の常駐する住居を選ぶ。
6		トイレ・キッチンの小窓等、侵入が可能な場所がある。		カギ・鉄格子等を設置する。
7	設備・構造	防火器具がない。		消火器・バケツ等を複数用意する。
8		玄関ドアが木製で、カギもひとつのみである。		ドアの強度を高めるとともに、複数のカギをつける。
9		警報装置を設置していない。		ドア・窓からの侵入防止対策を講じる。センサー付照明等も有効。
10		セキュリティサービスを受けていない。		警報装置とともに検討する。
11		貴重品を保管するための金庫等がない。		複数用意するのが望ましい。
12	非常時の備え	通学・買い物の時間が毎日ほぼ決まっている。		定期的に時間・ルートを見直す。
13		緊急時に備えた準備は特段していない。		水・非常食・燃料・ラジオ等の用意をする。
14		防犯対策が不十分である。		電話で先に名乗らない、チェーンロックなしにドアを開けない等基本動作を確認する。

